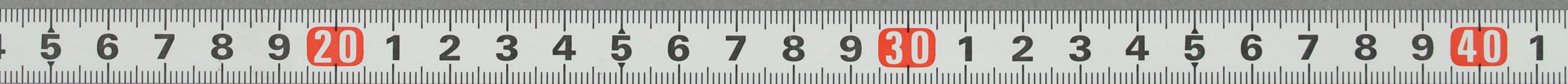
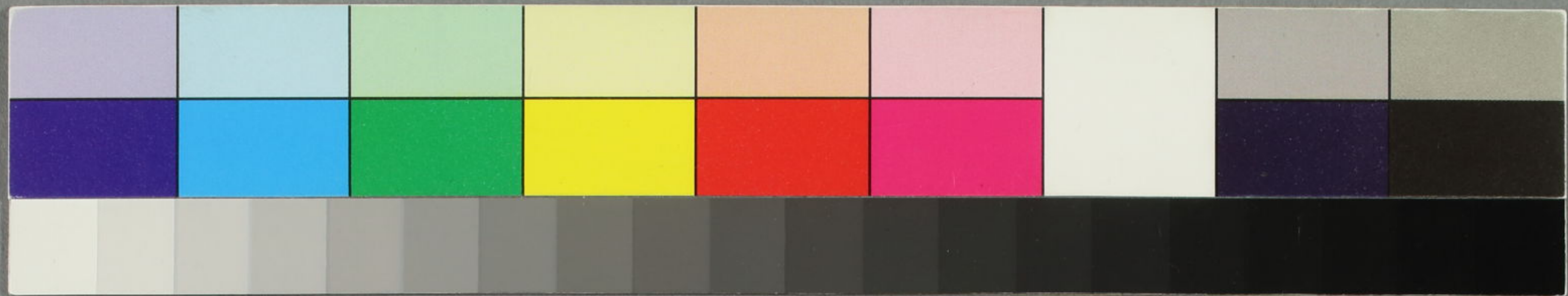


後者全巻

安永七戌戌年
文政六癸未年丁丑四十六年

特別
子 13
3849
47 (1)





子 18
3849
巻 47-1

47

後者チノヒウ金魚

藝品堂



大坂芝目録



高野タカノ山の

四奇シキ摺ズリ

かげふれツク勅ツクぎん

尻シラ子コ考カウ

金カネのつむじ

引ヒキ合アヒ乃

位イ乃ノ解トキ



和舞臺の

四月廿八日

海うぐいす

浄廟乃橋

初見組の一組

実子と海

可憐

お姫方の西他子

おきり此処奥の

地柳

大坂乃松屋三芝居役者並目録

名代大坂屋敷 左平小川屋敷 右平

名代塩屋左平 右平

立役と部

上吉 嵐 三又市 本宮

上吉 小川右市 左平

上吉 嵐 吉三市 市宮

上吉 嵐 文又市 日丸

上上吉 辰川柳 小川

上上吉 嵐 二十市 日丸

上上吉 嵐 八日丸

上上

尾 七之部 日九

上上

中村 七之部 日九

上上

尾上 七之部 日九

上上

中村 七之部 日九

誰さのひらきとてさうさうさ

▲実悪之部

上上

坂東 七之部 日九

上上

中村 七之部 日九

尺訓てもは例でハ 日九

▲歌復之部

上上

中村 七之部 日九

上上

三井 七之部 日九

上上

中村 七之部 日九

核での切るとさうさうさうさ

上上

中村 七之部 日九

江戸 七之部 日九

上上

桐山 七之部 日九

上りのひらきとてさうさうさ

上中 七之部 日九

上小 七之部 日九

上大 七之部 日九

上小 七之部 日九

上小 七之部 日九

上小 七之部 日九

上小 七之部 日九

上小 七之部 日九

一上中田首馬川

▲親父方之部

上上 後川十部之部 小川

上上 後川今平十部 日天

上上 中川正又部 市見

▲花車形之部

上上 嵐 又六八 市見

今でとびりしりた後也

○書 復若兼用

嵐 雉 助 小川

何でとびりしりた後也

▲若女形之部

上書 小川

上書 伏村園志部 市見

上書 若桐志之部 小川

上書 若桐志之部 小川

上書 之外姓之部 市見

上 山下龜之部 日天

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

上 中村玉かハ 小川

若菜老師
上上

とらり〜物と申す也
後川山 若菜
おろし定海しとらり〜

▲小川産子重分

- 一 尻 文代彦 惣一 尻 文代彦 重一
- 一 中 山 重彦 重一 尾 桐 法彦 重一
- 一 尻 万彦 重一 中 村 万彦 重一
- 一 小 川 吉彦 重一 小 井 吉彦 重一

▲市山産子重分

- 一 沢 村 雄彦 重一 市 川 重彦 重一
- 一 尻 仙彦 重一 尾 彦彦 重一
- 一 尻 沼彦 重一 山 下 重彦 重一
- 一 尻 他人 重一 尻 尾彦 重一

▲子重分

- 上上 尾上 西之助 小川
- 上 坂 东 彦 重一
- 下 中 村 吉彦 重一

子重分
上上

市山 西之助 重一

惣彦 重一

極上吉

尾上 菊又彦 重一

若菜 重一

雄彦 重一

若菜 重一

並本 又彦 重一

中村 阿契 重一
長谷 村 重一
並本 重一
辰 尾 彦 重一

若菜 重一

宗川 重一
中村 秋 重一
並本 重一
宗川 重一
宗川 重一
宗川 重一

○一寸しかさるべし
 二公道若極...
 孫...
 結...
 して...
 例...
 看...
 生記...

安永六年丙申七月十五日

寂謬海印淨見禪定門

俗名 中村条末節

中村条末節者曰保

中村條末節	山
-------	---

尾上	山
----	---

中山	山
----	---

中山	山
----	---

水本	山
----	---

二年	山
----	---

市	山
---	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

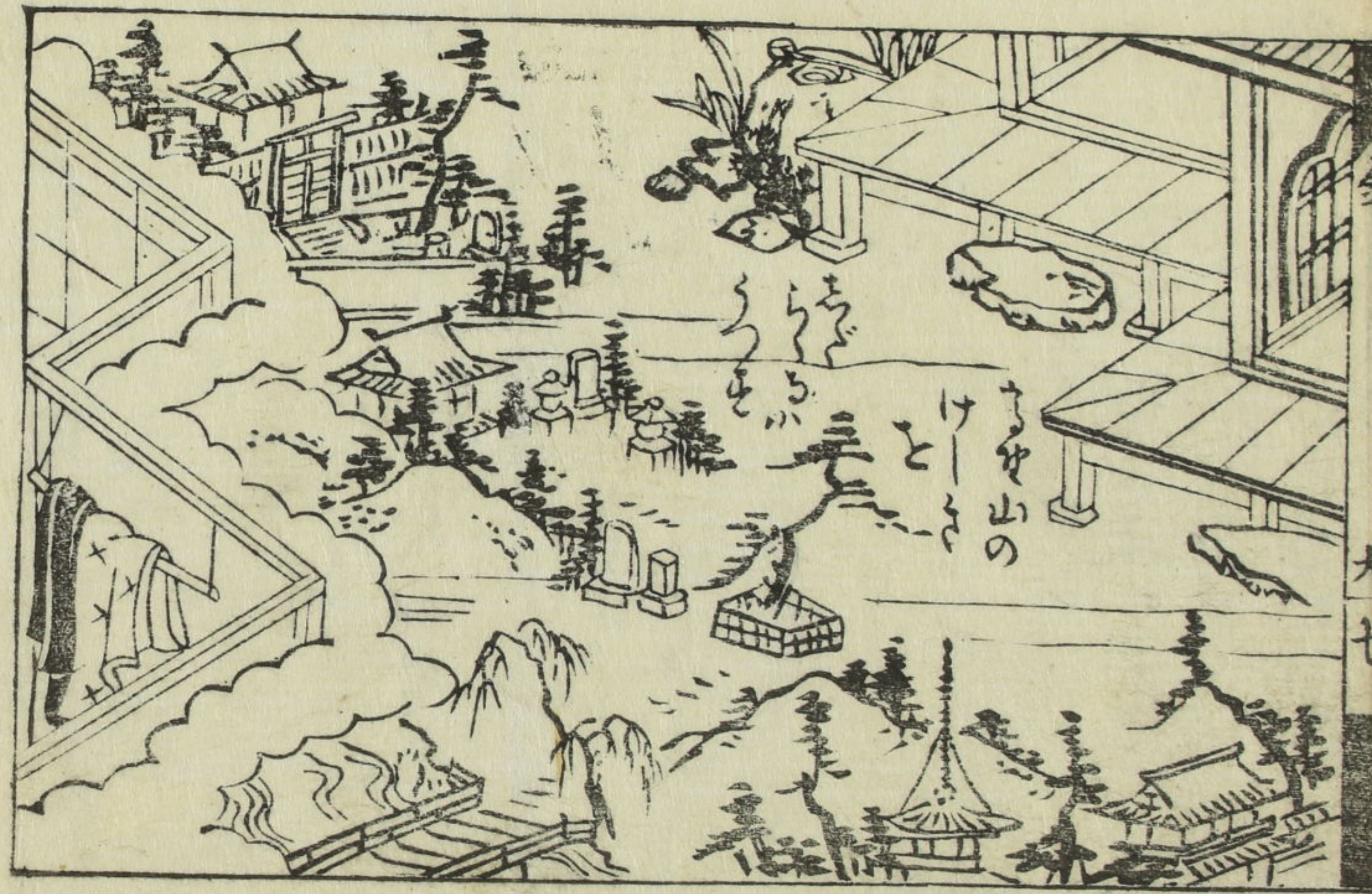
尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---

尾川	山
----	---



しきりていふはあつていふはよのきだりし
 てまらまらうはあつていふはよのきだりし
 まらあカイイガくまらまらうはあつていふはよのきだりし
 うらうへはあつていふはよのきだりし
 うらうへはあつていふはよのきだりし

西永七の戊乃

まらゆ

ひみふ

他

自

▲立襷之部

上吉細為之又希 市

同はあつていふはよのきだりし
 うらうへはあつていふはよのきだりし

善はあつていふはよのきだりし
 うらうへはあつていふはよのきだりし

有のあつていふはよのきだりし
 うらうへはあつていふはよのきだりし

そのあつていふはよのきだりし
 うらうへはあつていふはよのきだりし

若そのあつていふはよのきだりし
 うらうへはあつていふはよのきだりし

く今そのあつていふはよのきだりし
 うらうへはあつていふはよのきだりし

て千そのあつていふはよのきだりし
 うらうへはあつていふはよのきだりし

一あるは後方の續ては皆び一あるは上の方
 の裏のふりまを尾上産ふやう好まひを名を
 せたるものゆゆしくもゆゆしくも初通明
 聖子の實の書月のみを辨明人の知るは後を
 信託の地をまの南敷刀毎書續ては皆び
 初通明の書ゆゆしくもゆゆしくも初通明
 土のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 共のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 如しゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 西のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 却のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 一古創のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 ぐゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 る者ゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 ぬゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも

一あるは後方の續ては皆び一あるは上の方
 の裏のふりまを尾上産ふやう好まひを名を
 せたるものゆゆしくもゆゆしくも初通明
 聖子の實の書月のみを辨明人の知るは後を
 信託の地をまの南敷刀毎書續ては皆び
 初通明の書ゆゆしくもゆゆしくも初通明
 土のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 共のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 如しゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 西のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 却のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 一古創のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 ぐゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 る者ゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 ぬゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも

一あるは後方の續ては皆び一あるは上の方
 の裏のふりまを尾上産ふやう好まひを名を
 せたるものゆゆしくもゆゆしくも初通明
 聖子の實の書月のみを辨明人の知るは後を
 信託の地をまの南敷刀毎書續ては皆び
 初通明の書ゆゆしくもゆゆしくも初通明
 土のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 共のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 如しゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 西のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 却のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 一古創のゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 ぐゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 る者ゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも
 ぬゆゆしくもゆゆしくもゆゆしくも



金

大十郎

四
大高舞妓新
小庄

いんげん
いんげん

いんげん
いんげん

小高
中村
中村

相
相

九
平
平

柳
柳

孫
孫

五
柳
柳

いんげん
いんげん



いんげん
いんげん

五
柳
柳

いんげん
いんげん

いんげん
いんげん

いんげん
いんげん

いんげん
いんげん

甲村
十次郎

いんげん
いんげん

いんげん
いんげん

上上吉 四 辰 二十一年 申 亥
國者教也 徳地 徳地 辰 二十一年 申 亥
申 亥 辰 二十一年 申 亥

上上吉 四 辰 二十一年 申 亥
國者教也 徳地 徳地 辰 二十一年 申 亥
申 亥 辰 二十一年 申 亥

上上吉 四 辰 二十一年 申 亥
國者教也 徳地 徳地 辰 二十一年 申 亥
申 亥 辰 二十一年 申 亥

上上吉 四 辰 二十一年 申 亥
國者教也 徳地 徳地 辰 二十一年 申 亥
申 亥 辰 二十一年 申 亥

上上吉 四 辰 二十一年 申 亥
國者教也 徳地 徳地 辰 二十一年 申 亥
申 亥 辰 二十一年 申 亥

上上吉 四 辰 二十一年 申 亥
國者教也 徳地 徳地 辰 二十一年 申 亥
申 亥 辰 二十一年 申 亥

上上吉 四 辰 二十一年 申 亥
國者教也 徳地 徳地 辰 二十一年 申 亥
申 亥 辰 二十一年 申 亥

上上吉 四 辰 二十一年 申 亥
國者教也 徳地 徳地 辰 二十一年 申 亥
申 亥 辰 二十一年 申 亥

上上吉 四 辰 二十一年 申 亥
國者教也 徳地 徳地 辰 二十一年 申 亥
申 亥 辰 二十一年 申 亥

保好するものありては、必す其を去るべし
を以て精進すべし

▲此の如くは、（中略）と云ふ

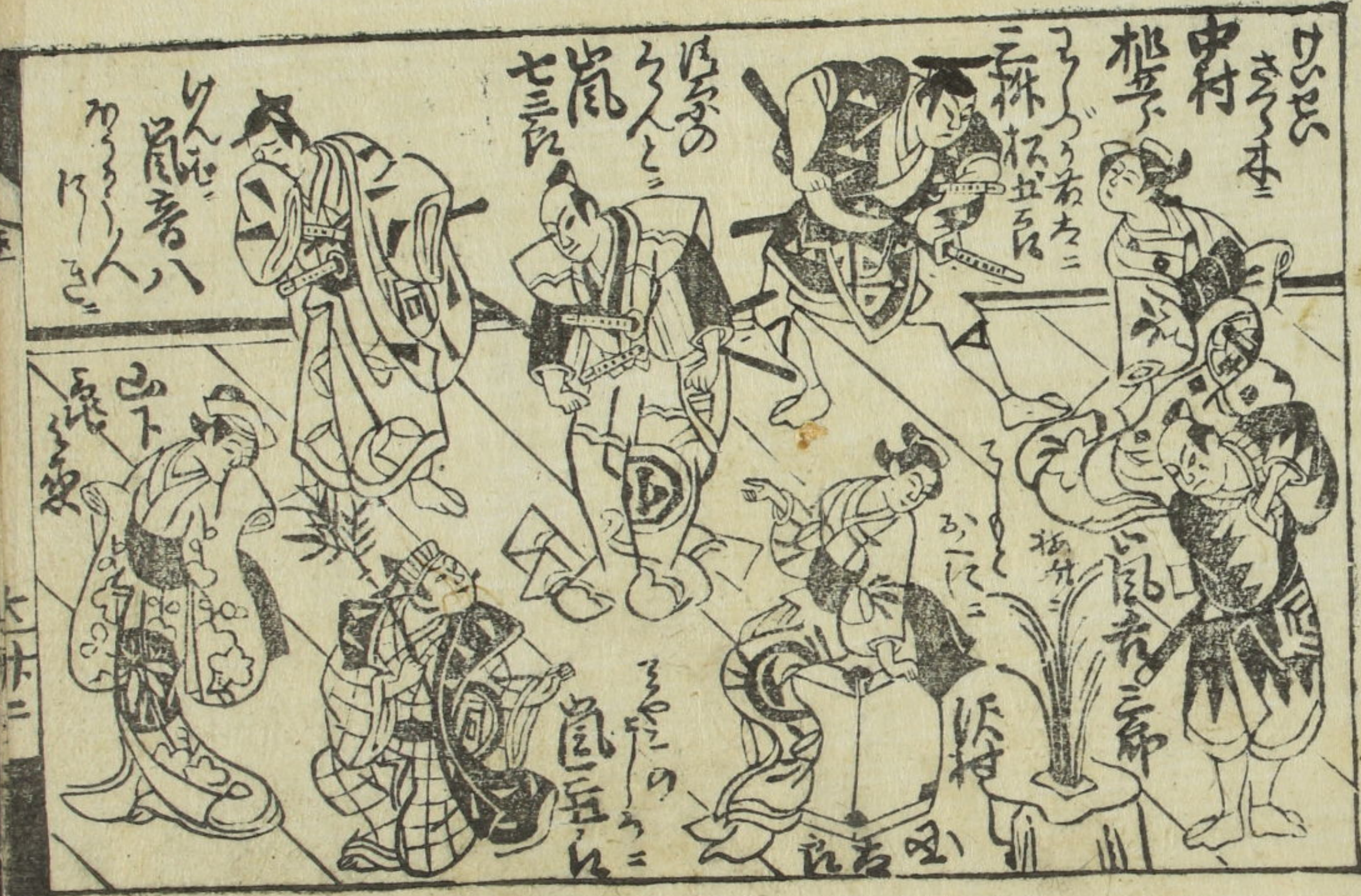
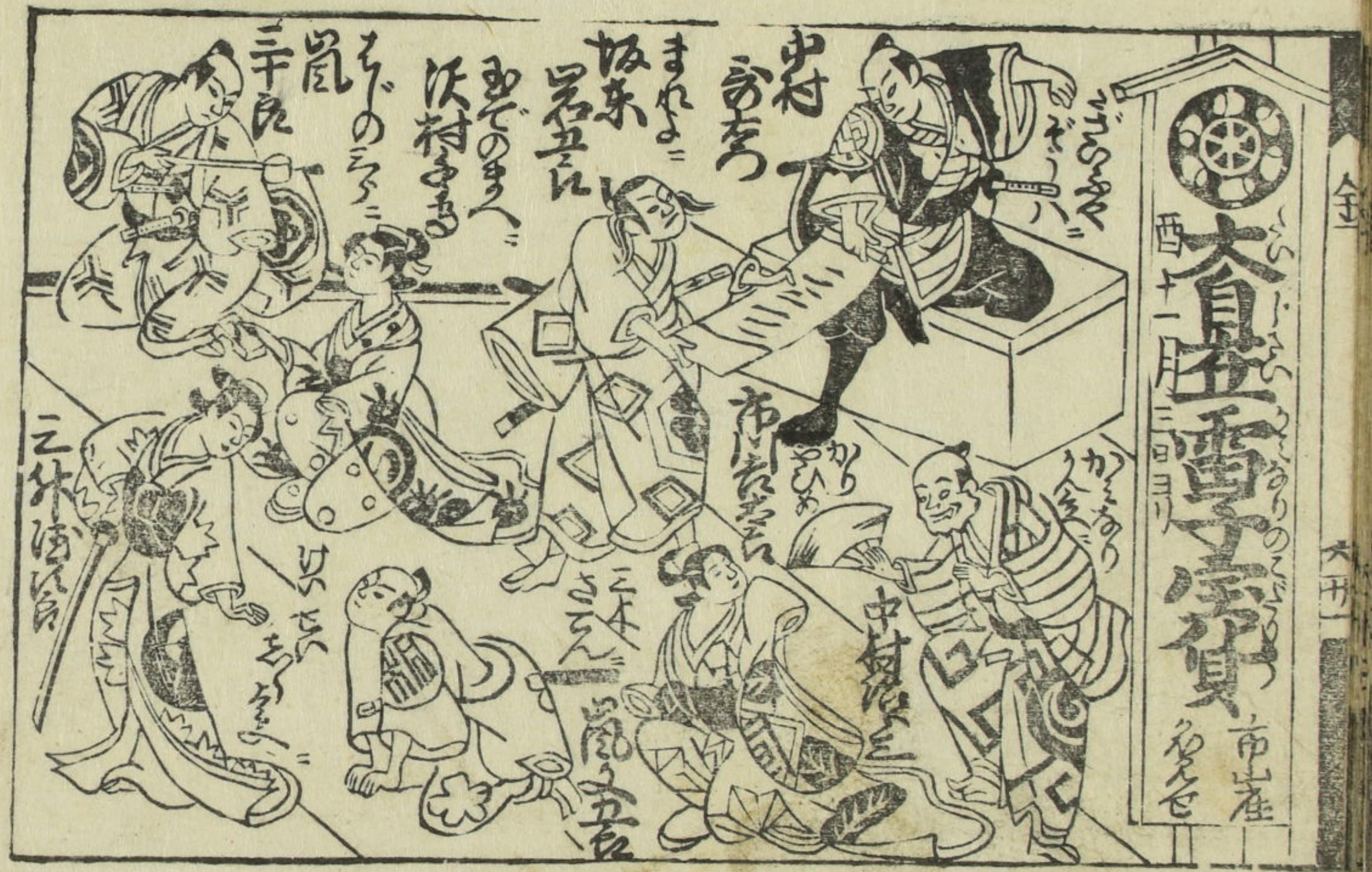
○立役 （実款） 兼用

因上書 ④ 歳 雜則 小川

（見） 是の如くは、（中略）と云ふ

此の如くは、（中略）と云ふ
亦、用立、（中略）と云ふ
ふと、（中略）と云ふ
此の如くは、（中略）と云ふ
保好するものありては、必す其を去るべし
を以て精進すべし
▲此の如くは、（中略）と云ふ
○立役 （実款） 兼用
因上書 ④ 歳 雜則 小川
（見） 是の如くは、（中略）と云ふ

此の如くは、（中略）と云ふ
先づ、（中略）と云ふ
保好するものありては、必す其を去るべし
を以て精進すべし
▲此の如くは、（中略）と云ふ
○立役 （実款） 兼用
因上書 ④ 歳 雜則 小川
（見） 是の如くは、（中略）と云ふ



の款形は福の字を三つ並べた野の字種別をたぐく
上上 中村玉柏 小川

中村玉柏 小川
この作は古くは長安を伝へたものなるに
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書
只自らの手記に録したるものなるに感ある
る所てはまことに其方必は其書にあり

上上 風 雛 治 小川

風 雛 治 小川
この作は長安の書房の録を以て其書にあり
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書

上上 中村樞又希 市川

中村樞又希 市川
この作は長安の書房の録を以て其書にあり
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書

上上 録 村山早希 小川

録 村山早希 小川
この作は長安の書房の録を以て其書にあり
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書

録無の書房の録を以て其書にあり
上上 山 松江希 小川

山 松江希 小川
この作は長安の書房の録を以て其書にあり
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書

上上 市川 古希 市川

市川 古希 市川
この作は長安の書房の録を以て其書にあり
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書

上 川 小川 子希 小川

川 小川 子希 小川
この作は長安の書房の録を以て其書にあり
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書

上 川 小川 子希 小川
この作は長安の書房の録を以て其書にあり
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書

上 川 小川 子希 小川
この作は長安の書房の録を以て其書にあり
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書

上 川 小川 子希 小川
この作は長安の書房の録を以て其書にあり
さう有るも高き重き等の狂言を不現の書

の討ちを承けしむるにあらざりしは、
 ありき事なり。一、道徳の道徳、
 風土の風土、
 大抵、
 先づ、
 然るに、
 才の、
 中、
 風、
 後、

▲子役と部

上上 粟尾と好く也 小川

園は、
 夫、

一の、
 上

◎坂東名松 市

上上 市心と好く也

園、
 上上

力、
 ○

○熱巻袖

極上吉 尾上 扇文布 小川

園、
 何、
 之、
 信、
 血、
 横、

